



クラウドファンディング

バングラデシュの先生方に 感謝の退職金をお渡ししたい！

先生 ありがとう



貧困により学校に通えない子どもたちが多く存在するバングラデシュ。
BDPスクールは「誰一人取り残さない」ために無償で初等教育支援を行っています。

しかし近年、日本からの寄付・支援金は減少しています。
国内に42校あるBDPスクールのうち、14校を閉校することになりました。
それに伴い31名の女性の先生が退職することに。
女性の労働機会が限定的なバングラデシュでは再就職までに多くの困難が予想されます。
これまで現場を支えてきた先生たち。
BDPスクールには彼女たちに感謝を伝えるための退職金システムがありません。
先生方の少しでもの支えとなりたい。
彼女たちが次のお仕事を見つけるまでの約2か月、
安心して生活できるようにするため、このクラウドファンディングを立ち上げました。

先生たちに感謝を伝え、先生方の未来を応援するための

90 万円を **2024.3.31** まで集めています。





アジア最貧国、バングラデシュ

1990年代までそう呼ばれていました。自然災害や難民など、様々な問題が発生する中で、現在も日々の生活に苦しむ人々が多く存在します。



当時の成人識字率は35%

バングラデシュでは多くの人がお薬の説明や注意書きも読めない現状がありました。医療支援活動をしていた船戸良隆氏と故ミナ・マラカール女史は、病気の予防のためには基礎教育が必要だと痛感し、初等教育支援のためのBDPスクールを創設しました。



現場を支える女性教師

貧困家庭や少数民族の子ども、障がいをもつ子ども。置かれた環境により学校に通うことが困難な子どもたちへ将来の可能性を広げるための「教育」を届けてきたのは日々現場で尽くしてくださっている先生方です。



日本の学生との交流

私たちACEFは現地パートナーBDPの協力のもと、毎年スタディツアーで日本の若者と現地を訪れて文化交流をしています。この体験をきっかけに、国際協力や社会課題解決のために取り組む学生が多くいます。

皆さまより応援メッセージ



元ACEF事務局長 井上 儀子さま

何とも辛い現実に向かい、心は痛むのですが、ACEFとBDPは34年間、何度も辛い状況を乗り越えてきました。BDPの子どもたちを愛し、長い間勤めてくださった先生方に少しでも感謝の気持ちが伝わりますよう、どうか、みなさまの温かいご協力でのクラウドファンディングを成功させてください。何卒よろしくお願い申し上げます。



BDPスクール卒業生 ミトゥ・ラニ・ダスさま

BDPを誇りに思う卒業生として、学校の閉鎖と献身的な教師たちの退職について知り、悲しく思います。BDPが退職を支援する資金を欠いていることは残念ですが、ACEF Youthがクラファンを立ち上げたことに希望を見いだしました。BDPの卒業生と皆さんが一丸となり、私たちの努力の積み重ねが、教師が相応の退職金を受け取れるという、大きな変化をもたらすことができるのです。私たちの愛する教師たちの明るい未来を確保する一翼を担ってください。



BDPスクール補助教員 モサマッド・シルピ・ベガムさま

日本の親愛なる皆様、私たちは長年BDPで働いてきました。しかし、減少する生徒数と日本からの資金により、私たちの学校は閉校を余儀なくされました。新しい職を得るのは年齢的に難しく、家計も厳しい状況です。ですから、皆様が一時的に資金援助をしてくださる、あるいは学校の再開に力を貸してくださるのなら、感謝の気持ちを決して忘れません。どうぞ、BDPと私たちのためにお祈りください。皆さまの健康と幸運をお祈りいたします。